

「ささえ」

2014年 1月発行 情報誌 第46号

発行NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395(福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyounet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神1丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

【商品名】自動排泄処理装置
尿吸引ロボ「ヒューマニー」



夜ぐっすり眠れるから
屋間頑張れる!



【発売元】ユニ・チャーム ヒューマンケア(株)

【商品名】床ずれ防止用ハイブリッドマットレス
「アルファフラ ソラ」



新発売
ハイブリッド型
車いす用クッション

【商品名】
アルファフラ
ソラ クッション



【発売元】(株)タイカ



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい…」

NPO 福祉用具ネット設立 10 周年記念イベントの報告

NPO 福祉用具ネット理事 左 広美

2002 年 11 月に誕生した、NPO 福祉用具ネット。その「創立 10 周年記念イベント」が、去る 9 月 7 日土曜日に開催されました。この記念行事の開催についてはおよそ 1 年前から、理事会で何度も話題にあがりどのような形で開催するのか議論を重ねてまいりました。しかし、議論はするものなかなか具体案はあがらずに、気持ちは焦るばかりでした。ついにやってきた開催当日。幸いお天気にも恵まれました。さらに、当初予定していた会場の確保が危ぶまれていたにもかかわらず、第一



当日の来場者は 134 名

希望通りの会場を使用できるというラッキーハプニングに恵まれた開催となりました。

記念イ

ベントでは、豊田謙二理事長による開会の挨拶後、①NPO 福祉用具ネットフォトストーリー ②基調講演 ③シンポジウムというプログラムで進行了ました。以下にその様子をご報告いたします。

① NPO 福祉用具ネットフォトストーリー

会場前面のスクリーンにプロジェクターから映写された 10 年間の写真の数々。そこに、大山さんから書き込まれたメッセージ。それは、まさに走馬燈を見ているようで、数多くの出来事があったものだと感慨深いものがあり、思わず目頭があつくなりました。



左から豊田理事長と橋元先生

② 基調講演 ; 橋元隆先生 (九州栄養福祉大学リハビリテーション学部小倉南区キャンパス副学長) テーマ:「事例から学ぶ自立(律)支援～機能障害と生活障害～」

をご講演していただきました。そこで「自立の目

的は単なるサービスの提供ではなく、問題(課題)の解決であり、満足度の高い生活の実現である。」という先生の言葉が印象的でした。「この方が～できるように支援」をするのではなく、「この方ご自身が本当に満足するとはどういうことなのか」を探り、それが実現できるお手伝いをするのが真の自立の目的となるのだらうと思いました。

③ シンポジウム テーマ:「現場からの実践報告 福祉用具の活用と課題」

コーディネーター ; 豊田謙二理事長

コメンテーター ; 橋元隆先生

シンポジウムの参加者は 4 名です。

スターターの、筑穂桜の園施設長である中嶋香寿美さんから



左から中嶋さん、佐野さん、西村さん、井内さんは、施設

の紹介をしてもらいました。こちらの施設は筑豊地域では珍しい小規模ユニット型の特別養護老人ホームです。小規模ユニット型ならではの、きめ細かなサービスが提供されています。次に、佐野征子さん。ご主人が交通事故に遭われ寝たきりとなり、それから約 15 年間、介護を続けておられます。ご主人にとってハッピーな介護を求め続けた結果、例えば食事介助では、まずは佐野さん自身がご飯を食べ終え、満足をした状態でご主人の食事介助を始める。というように、無理をしすぎず自分が楽しめる生活環境作りをすることだということに辿り着いたということでした。そして、康和会りんごケアプランセンター管理者である西村静子さんは、事例をとおしていくつかのことを学ばれたとのことでした。そのうちの一つは、「些細な問題でもそれに専門家が気づき、見過ごさない姿勢が大切であり、そこでやれることがあればやってみることで、その問題が解決できることにつながる。」ということを学ばれたそうです。最後にあおぞらの里行橋訪問看護ステーション 理学療法士の井内陽三さんは、訪問リハビリについて説明をしたのちに、事例を交えながら福祉用具導入過程での課題について述べ、在宅分野のリハビリ

専門職に期待されていることは「情報の提供者になること」「生活支援の専門職になること」という提案がされました。

閉会の挨拶を吉村恭幸理事が行い、この日の記念行事は幕を閉じました。最後になりましたが、当日は、叱咤激励をはじめ、福祉用具開発のアイデア、PRの方法など実に数多くの感想をいただきました。そして、次のようなうれしいメッセージをいただきました。『これほどまでに田川を拠点としてパワフルに活動されている法人があること大変うれしく思います。』田川のみならず筑豊地域、九州、全国展開で動いているNPO福祉用具ネットです。今後とも皆様のお力添えをいただけますようによりしくお願い申し上げます。



お祝いの品々や電報をありがとうございました。

シリーズ
あきらめない生活改善！
『道具・人・環境の工夫』

第5回 最後まで気丈に生きぬいた 103 歳女性
～2 か月間 7 回のショートステイを受け入れて～

筑穂桜の園施設長 中嶋香寿美

私が施設管理者をしているユニット型特養「筑穂桜の園」で終末期のAさんという103歳の女性をショートステイでお受けした時のことをご紹介します。この女性は入院先の主治医からは「余命1週間ぐらいでしょう」と宣告されました。Aさんは、うわ言のように「家に帰りたい」と繰り返していました。そこで、ご本人の意思を尊重し、ご家族は自宅に連れて帰られることにして、訪問看護を利用し看取りをされることになりました。ところが、Aさんは自宅に戻ってくると、不思議なことに食事が摂れるようになり、少しながら会話ができるまでになりました。長年住み慣れた場所で、私たちには計り知れないたくさんの出来事があった普段の生活の場に帰ってきたからだと思います。

います。そこで、在宅での介護が長期戦になる可能性があり、ご家族の介護負担軽減のために、定期的なショートステイを利用することになりました。私ども施設スタッフとしては、ショートステイで終末期の方の受入は、初めてのケースだったので、担当ケアマネや訪問看護と綿密な打ち合わせをして、互いに情報を共有しました。施設内でもすべての職員が連携して係り、ミーティングや申し送りを密に行いました。Aさんは在宅酸素と低血圧ではありましたが、主治医の許可もあり、大好きなお風呂には、毎回入ってもらうことができました。

しかし、4回目の利用時から食事が摂れなくなり衰弱しており、利用中に、緊急の往診を依頼し、点滴治療を受けました。その後も脱水による全身倦怠感や床ずれ発生など体調は優れませんでした。バイタルサインは安定していた為、ショートステイは継続されました。異変時は、緊急時訪問診療（介護保険外）ということで主治医が全面的にバックアップしてくれることで、私たちも安心して受け入れられました。Aさんは103歳ですが、認知症はなく、寝たきりのための全身痛、特に腰痛を訴えかなり苦痛を感じられていましたが、とても気丈に振る舞い、少しでも気分が良い時は、職員と会話し、「長い間、世話になったな」「ありがとう」と感謝の言葉や笑顔をくれました。毎回来ていただく事を約束していましたが、8回目の利用予定日は、ご家族よりキャンセルの電話があったのです。その日の午後、Aさんはご家族と過ごした心の棲家で、大好きな方々に見守られながら103年間の生涯をとじられました。103年間気丈に生きて来られた強さ（生命力）が、自宅に帰ってからの2か月間を生き抜いたのだと思います。とはいえ、その生命力だけではひよっとしたら、医師の宣告通り「余命1週間」だったかもしれません。Aさんの「家に帰りたい。」という強い希望を受け入れたいというご家族のあきらめない愛情。さらに、その家族愛をあきらめさせることなくサポートしようとするケアマネをはじめとする専門職のチームワークも不可欠だったと思います。人生の最後の時間をAさんと一緒に過ごすことができたことやご家族の力に少しでもなることができたのなら幸いです。職員一同心よりご冥福をお祈りします。



シリーズ 福祉用具研究会の活動報告 ～15周年に向けて～

第5回 「福祉用具研究会とのかかわり」
中津市 やなが住設 代表
矢永 良雄

福祉用具研究会に参加するようになって5年近くになります。きっかけは障がいのある方の住宅改修を経験し、福祉住環境コーディネーター2級を取得したことです。FJCからの紹介でこの研究会を知りました。はじめて手がけたその改修は、ご本人と家族にはとても満足していただけたと思っていました。しかし、数ヶ月後、ご本人の話を聞いてみると、必ずしもそうではない。じつは最初から満足していたのは家族だけで、本人の意向はあまり反映されていなかった上に、使ってみるといろいろな不具合がでてきたし、それが家族にはわかってもらえず、ご本人は満足しているわけではなかったのです。住環境というものがどれほど大切か、また、身体の状態によって、「良い・悪い」の答えはどちらか一つではないことを思い知りました。日本人にとって最適な住まいとはどのようなものか、歳をとっても、身体が不自由になっても、住み慣れた家にできるだけ長く住むにはどのような工夫をしたら良いかを考えると、住環境とは「家」と「住宅設備」だけではなく、福祉用具も含めて考えるべきであることをこの研究会に参加して、強く思うようになりました。医療畑ではありませんが福祉住環境コーディネーターの試験勉強や、研究会での学びの中で、ずいぶん知識も増えました。建築の現場では一級建築士さんといえば、何もかもわかっていると思われがちですが、じつはそうではないことも多いのです。特に身体の事や障がいのことについてはわからない方がほとんどだと思います。残念なことに、ケアマネジャーさんにも同じことが言えます。そんな時に、少しでも私の知識で橋渡しができることが嬉しく、励みにもなっています。介護保険による住宅改修の仕事はふえましたが、上限20万円ではほとんど改修らしいことはできません。介護保険導入前にあった住宅改修への助成金制度がどんどん削られて、残念です。中津から、仕事が終わってからの参加は大変でもありますが、今後も研究会に参加して、自己研鑽し、将来的には福祉住環境コーディネーター1級取得をめざしています。よろしく願いいたします。

特集

ねえ、施設やデイサービスの職員さん、
聞いて。

NPO福祉用具ネット情報誌「ささえ」
編集委員会

ささえ46号では、施設やデイサービスの職員さんにむけてのご意見をいただきました。まずは、ご一読くださいませ。

デイサービスのスタッフの方へ

- * ご自宅内清潔保持が保てない方を、上手く対応し排泄や入浴の援助を行ってくださり、ありがたく思います。せっかくデイサービスでお洋服やお身体がきれいになっても、ご自宅に戻るとまた元通りになってしまうので、申し訳なく思います。
- * 個別サービス（買い物訓練）において市販のお薬等を購入された場合は、お薬を多飲する方や飲みあわせ等で課題が生じる方もおりますので、ご家族様もしくはケアマネやその他の関係者にご一報いただければ助かります。
- * 送迎の際、できれば自宅玄関まで確実に送り届けていただけると助かります。時々ご利用者さんが「大丈夫」と言われるために、途中までで送り届けを終えることがあるようですが、その後転倒することも少なくないので、確実に対応していただけたらと思います。
- * 通所サービスに行っている時は、利用者様が「お客様になっている」為、色々スタッフがしすぎている様な感じがします。もう少し、利用者様の出来る事を引き出して頂けると助かります。
- * 利用者様の報告ですが、出来れば文書で頂けると助かります。事務所で電話を受け、状態が悪くなった内容等話されても、記録しながら聞いているので、大変です。出来れば文書で頂きたいと思います。

施設・ショートステイの スタッフの方へ

- * 清潔保持面において、お顔や衣服だけでなく、ベッド周辺や車いす等の福祉用具についても少し気にかけていただくと助かります。食べこぼしや手垢等の汚れが気になります。
- * 利用時のご様子や認知症の周辺症状での問題等、ご家族に説明していただく場合、できれば直接的表現は避けていただければありがたいです。
また、電話での説明は誤解を招く可能性も高いので、緊急な要件以外は対面時に行っていただくなど、配慮していただければ助かります。
- * 毎日の反応を丁寧に書いてくれる職員の方、家に伺うサービス事業者も助かっています。
- * ケアの合間でしてくれた爪のネイル。利用者の女性が目を輝かして語ってくれましたよ。
- * お迎えの方、片麻痺がある方の階段昇降の介助方法間違っていますよ。危険です。
- * 車いすの乗せ替えが大変でしょうが、施設にある本人に全く合わない車いすに長時間座らせるのはやめてください。
- * クッションもなしに長時間、車いすに座らせるのは問題ですよ。姿勢が崩れていることに気づいてください。
- * 病気に関して、適当なこと、間違っただけを言われるのは大変困るのでやめてください。
- * 片麻痺のある方の下肢装具の着用、きちんと行ってください。身体を支えている大切な一部です。
- * 車いすクッションの向き、きちんとあわせてください。

施設・ショートステイの スタッフの方へ共通

- * ご本人様の些細な状態の変化に気づき、いち早く連絡していただけて、とても助かっています。
- * 認知症で人形しか相手にしなかった方が、スタッフの方の統一した毎日の関わりで、入居者の方とも短い言葉ですが会話できるようになりました。毎日根気強く接した効果だなと感じました。
- * 車椅子で過ごされている利用者で座位姿勢が長続き出来ず頻回に姿勢直しをしなければならない方のことです。トイレ排泄後、歩行練習を取り入れスタッフ間で方法の統一をされ毎日取り組まれました。1ヶ月くらい経過してから座位姿勢も良くなり食事時の姿勢も安定して来ました、スタッフの毎日の取り組みの成果だと感心しました。
- * 精神的に変動が大きく、家族の方も心配していたショートステイ利用。本人がご機嫌で帰宅され、家族の方も喜んでおられました。素晴らしい対応ありがとうございます。
- * 必要なケアを他のサービスに無理やり回し、行わないのは、どうかと思えますよ。

…最後に…

「後始末がもう少して、一人でできそう」「浴槽への出入りができない」とかを気づかれたときに書いていただけると、より利用者さんの動きが理解できるようになり、プログラムにも反映することができるようになると思います。そして、情報提供をいただいた私たちは、その課題に対してのお返事をしなければなりません。そのようなキャッチボールができるようになると思います。

自宅ではわからない動作も知ることができ、より利用者さんのことを知る事ができます。

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その36)

NPO福祉用具ネット 理事 坂田 栄二
(九州ヘルスケア産業推進協議会 コーディネータ)

キャッチコピーは こう決めろ!

シャワーの写真を撮り終えた大山は、次にカタログでアピールするキャッチコピーを検討することとした。

いきなり松原を呼び出すと、何事かと慌ててやって来た。

「この商品のいいところは何？」

唐突な質問にどうやって答えていいかわからない松原は、自分の思いを並べるしかなかった。

「まず、バケツ一杯の水で洗髪できるだろう！それから…」

次の答えを遮るかのように

「なんでバケツ一杯で済むの？」

と畳みかける。

「そりゃー、…シャワーがリング状に噴き出るからたいてい。」

「リング状に出るとどうなるん？」

「リング状に出ると、水がリングの中に溜るから、泡が簡単に消えるんたい。」

こんなやり取りが二人の間でしばらく続いた。

大山は、話を聞きながら、メモをしている。そのメモには、松原がしゃべった単語しか書かれていない。「一杯」、「リング」、「溜る」、「飛び散らない」のように。

大山は、これらの単語を線で結んでいく。しばらく線を書き散らしていたが、

「判った！こうしよう。まず一番目は“飛び散らないリング状シャワー”。これが一番大事。ベッドの周りを汚さないし、利用者さんの顔にもかからないから気持ち悪くないし…」

こうやって、カタログのキャッチコピーは、決められていった。

「これ以上は無理」のデザイナー

大山は、次にデザイナーを呼び出した。

「このコピーで、この写真を使ってカタログのデザインをしてくれない？もうすぐHCRの展示会があるからそれに間に合わせたいの。」

HCRの展示会は、あと10日もない。大山は無理と判って言っているのか。

その上、すでにエアーマットのカタログデザインや展示会場のレイアウトや壁の装飾なども依頼されており(ささえ25号で掲載)、それだけでも手一杯な状態。

デザイナーはとてもじゃないけど間に合わないよとでも言いたげに、

「写真は、これを使うんですか？」

デザイナーは、自分のデザインに合わせて写真を撮るのが一般的であるが、“これを使え”と強制されていることに困惑していた。

しかし、何枚か写真をめくっていたデザイナーの表情が変わってきた。どうやら大山が撮った写真が使えそうな感触を持ったようだ。

「あんたなら出来るよ！」

大山は、ほめているのか、命令しているのかわからない口調でデザイナーに頼み込んだ。

写真を一通り見終えて、次いでキャッチコピーを見ていたデザイナーは、面白そうなコピーが並んでいるのを確かめて、

「判りました。こんだけ材料がそろっていたら出来そうですね。やってみます。」

デザイナーは写真やメモなどの資料を受け取ると、時間を惜しむかのように部屋を出て行った。

どうデモする？

次はシャワーの展示の見せ方である。シャワーは、ただ置いておくだけでは、その良さは分からない。大山はそんな懸念を持っていた。

デザイナーが部屋を出て行ったあと、横に座っていた松原に自分の懸念を投げかけた。

「展示はどうするの？」

「まかせてといてくれ。良いことを考えているから」

すかさず松原は答えた。

大山は、シャワーばかりに構ってはおられない気持ちで、松原に任せるしかないと、

「大丈夫？じゃー、ちゃーんとやってよ？」

とそれ以上突っ込まなかった。

用意周到の水色

次の日、松原は大山の元を訪ねた。手には、水を半分くらいの水位まで入れた透明アクリル製の四角いボックスを持っていた。

そのボックスを机の上に置き、ポケットから、大きな洗濯ばさみのようなクリップを取り出して、シャワーヘッドを取付け、そのクリップをボックスの縁に噛ませた。

ボックスの中にポンプを沈め、シャワーヘッドの先をボックス内に向くようにクリップを調整した。

大山は、何が始まるのかと不安げに見守っていたが、松原がポンプのスイッチを入れると、

「よってきたやん(よくなりましたね)」

と手をたたいて喜んだ。

家電店などで見かける水道蛇口の循環式デモと同じ考えだが、大山は、それを松原が自分で実現したことを褒めていたのだ。

しかし、大山はこれだけでは終わらない。いつもの調子で自分が納得のいかないところを指摘する。

「水がリング状に出ているところが、いっちゃん判ら

ん(全く判らない)」

それもその通りである。水は透明だからどんな形で噴き出しているのかははっきりしないのだ。

大山が続けて何か言おうとするところをすかさず、「そこもちゃんと考えてるよ。」

と、そばに置いていた箱から袋を取り出して、水の中に投入した。粉状のものが入ると、水はたちまちピンク色に変わった。

「ほら、これだと見えるだろ！」

自慢げに笑った。

ピンク色の水がリング状に噴き出ているのが、遠くからでもよく判る。

「これなら良いわ。」

大山も満足した様子だった。

「展示会でちゃんとやってね。」

大山は、念を押すかのように言ってシャワーヘッドのcockを何度も入り切りして確かめた。

みんなが慣れた大山の性格



何日か経って、デザイナーがカタログ案を持ってやって来た。

本物の印刷したもののようにきれいに仕上がっていた。しかし、大山はどこか不満気である。

「これはシャワーのカタログだから、パッと見たときすぐにシャワーってわかる色にしてよね。」

何か一言言わないと気が済まない大山のことを良く知っているデザイナーは、3つの案を作ってきた。

「これなんかどうですか？」

カタログのバックカラーがブルーのデザインであった。

「ああ、こっちの方がいいよね。」

これで即決定である。みんなも大山の性格に慣れてきたのかもしれない。

もう、展示会までに残り少ない時間となっていることを承知していたから、デザイナーも準備していたのだろう。

これで、展示会の準備は整った。

初めてのお客に動揺

いよいよHCR展示会が始まった。

メインデビューさせるのはハイブリッドエアーマットP-Waveと洗髪シャワーである。

なかなかお客が来ない。松原は、お客がいつ来ても良いように、自信作のシャワーの横に待機しているが、こうも客が来ないと、さすがに手持無沙汰である。

松原は、やることなく、シャワーヘッドのcockを閉じたり開けたりして遊んでいる。

しかし、一人の男性がそのしぐさをじっと見ていた。手に持ったシャワーのカタログと松原の前のシャワーとを見比べながら、しばらくじっと立っていた。

やおら歩き始めると、松原のそばに行き、

「このカタログのシャワーがこれですか？」

と松原に話しかけた。

はじめてのお客に動揺したのか、松原はどう回答したらよいのか、

「そ、そうです。」

というのが精一杯だった。

「なかなか良さそうですね。」

そう言いながら、名刺を取り出して松原に差し出した。松原も慌ててポケットをあちこちまさぐって名刺を取り出した。うれしい動揺だった。

「これをうちで販売したいのですが。」

その男性は、自分の会社の紹介を始めた。

その会社は、いろんなメーカーの医療機器や介護機器を集めて分厚いカタログ雑誌に掲載し、この雑誌を卸店などに配布し、注文を取ってもらい販売する大手の販売会社だった。

松原は、その会社の規模に魅かれ、またとないチャンスと喜んだ。自分の商品がどのように販売されるかということより、認められたことに天にも昇る心地だった。

“シャワー”はわが子

しかし、それをそばで聞いていた大山は満足していなかった。

「そのカタログにはいつ載せてもらえるんですか？」

大山は、自分の疑問を投げかけた。カタログが毎日、毎週印刷されるはずがない。だとすると、次の印刷までは、この商品は世に出ない。

「このHCRに合わせて印刷を終えましたので、次回は、6か月先になりますね。」

その男性の答えは、大山が想像していたものだった。

“この子(シャワー)は6か月間も日の目を見ない。そんなことは許せない。”

大山にとってみればわが子のようなものである。それを軽々しくも“6か月先”とは何事かと言わんがばかりの心頭だった。(次号へつづく)

事務局だより

西日本国際福祉機器展のご報告

11月22日から24日までの3日間、北九州市の西日本総合展示場新館に於いて第15回西日本国際福祉機器展が開催されました。

来場者数 3日間合計 20,712人

11月22日 7,411人

11月23日 7,209人

11月24日 6,092人

会員の皆様もたくさんご来場いただきました。ありがとうございました。

NPO福祉用具ネットのブースは本NPO含む16社が出展をしました。出展協力いただきました企業様にお礼を申し上げます。

またセミナーは3か所の会場で合計20のセミナーを開催いたしました。

講師派遣をしていただきました別府リハビリテーションセンター様や佐賀大学松尾清美先生、各メーカーの講師の先生方、また、共催していただきました福祉住環境コーディネーター協会様、福岡ひとにやさしい介助を考える会の関係者の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



【10月から12月までの事務局の主なうごき】

主な業務

第15回西日本国際福祉機器展出展

西日本国際福祉機器展セミナー開催

企業からの依頼の製品評価試験2件

介護施設での共同研究

開発等の相談事業

10月

10月1日 ささえ45号発送準備作業

10月2日 ささえ発送

開発品モニター試験のため

10月4日 介護施設訪問

クッション長期実用試験報告書

10月5日 福祉住環境コーディネーター協会主催

福岡市田尻苑様見学

10月10日 開発相談 会議一日

10月11日 大分別府施設訪問

検証結果のヒヤリング

10月14日～16日 実験の準備

10月18日 企業に報告書持参

10月21日 介護施設訪問 福祉用具研究会7回目

10月23日 介護施設訪問

10月26日 西日本展示会リーフレット発送

10月27日 介護施設訪問

10月28日 開発相談 実験結果解析

10月29日 介護施設訪問

10月30日 実験準備のため企業訪問

10月31日 実験1日間

11月

11月1日 介護施設訪問

11月7日 介護施設訪問&解析作業

北九州市施設見学3か所

11月8日 開発相談一日会議

解析作業

11月9日・10日 福岡県立大学学園祭

11月10日 実験結果解析

11月15日 企業へ実験結果報告書提出

11月16日 介護施設訪問

11月19日 博多ヘルスケアサービス部会出席

開発相談1社

11月20日 西日本国際福祉機器展搬入準備

11月21日 西日本国際福祉機器展設営

11月22日～24日 西日本国際福祉機器展

出展&セミナー3か所開催

11月25日 福祉用具研究会8回目

12月

12月3日 介護施設訪問

12月4日 企業来社相談

12月5日 介護施設訪問&解析作業

12月6日 介護施設訪問

12月7日 宮若市ケアマネ研修会にて講義

NPO福祉用具ネット忘年会

12月9日 企業開発会議一日(博多)

12月12日 介護施設訪問&解析作業

12月16日～17日 九州ヘルスケア産業推進協議会

主催施設見学(鹿児島)

12月18日 ささえ46号印刷依頼

12月20日 介護施設訪問&解析作業

12月27日 ささえ46号発送準備

【平成26年度会員募集】

平成26年度会員の募集を1月より開始します。

継続会員の手続き及び、新規会員の募集を行います。

事業年度は4月から平成27年3月末まで

詳しくは事務局へお問い合わせください。